

令和五年度 奈良県知事賞

税金を学ぶきっかけ

十津川高等学校 二年 尾中 惟央奈

新型コロナウイルスの流行により、色々な場面で税金が使われているな、と感じることが増えたり、またこれに伴って税金の大切さを考えることが増えました。以前までは、税金を意識することが少なく、消費税を払わなければいけないのか、と税のことをあまり良く思っていませんでした。ですが私が新型コロナウイルスにかかってから、税金に対する考え方が変わりました。

私が新型コロナウイルスにかかったのは今年の二月で、コロナウイルス感染症が五類に移行する、とニュースでよく報道されている時期でした。このこともあり、コロナウイルス感染症に、税金がどのような使われ方をしているのか気になり、調べました。コロナウイルスに感染しているかを調べるキットや、ワクチンを無料で受けられる、ということだけでなく、入院費、さらに学校などに置いてある消毒液や、非接触型体温計など、様々なところで使われていることがわかり、驚きました。

これらに使われている税金は、私が嫌だなと思っていた消費税だったり、私たちが働くようになったら払わなければならない所得税、また法人税などから補われています。しかも新型コロナウイルスには、約七十七兆円もの税金が使われていることも知りました。これは東日本大震災の復興予算を、大きく上回る金額だそうです。

私は、消費税が値上がりしたり、働いたお金を税金として国に払わなければならないことが嫌でしたが、税金がこのように見える形で使われていたり、私たちのために、これだけ多くの税金が使われていることを知ることができて、少し安心しました。私が普段生活していて、税金が使われているな、と感じるところは、教育費や医療費でした。それに加え、新型コロナウイルス対策です。そして、私が知らないだけで、まだまだ使われているところがたくさんあると思います。税金は、私たちの身の周りにたくさんあることを学ぶことができたので、今後、このことを生かしながら、買い物や勉強をしていこうと思います。